

■コメント

1 新型コロナウイルス感染症

第29週に6,857件の報告があり、急増しています。増加の主な要因は、オミクロン株のBA.5への置き換わりによるものと考えられています。感染者の増加が続けば入院も増え、医療のひっ迫を招きます。一人一人が、基本的な感染防止対策を徹底することが重要です。

2 RSウイルス感染症

定点当たり6.25人の報告があり、増加が続いています。生後数カ月までの乳児が初感染した場合は重症化しやすいため、注意が必要です。

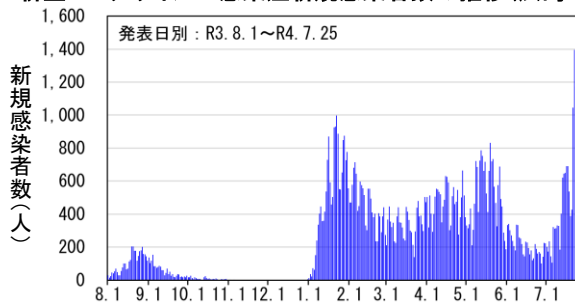
3 手足口病

定点当たり3.29人の報告があり、多い状況が続いています。広島県は7月21日に県内全域に「手足口病警報」を発令しました。

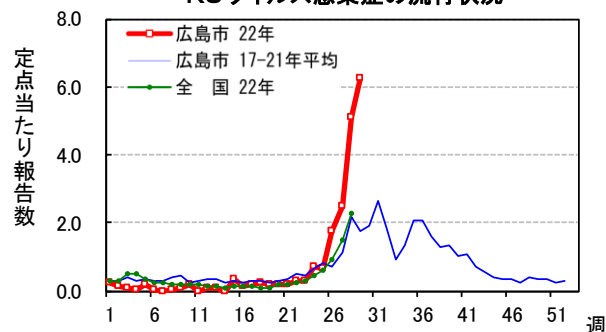
4 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

今年初めての報告が1件ありました。SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることで感染します。山や草むらに入るときは、長袖、長ズボンを着用するなど、肌を露出しないように注意しましょう。

新型コロナウイルス感染症新規感染者数の推移(広島市)



RSウイルス感染症の流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年間(注)	発生記号
フィリ	インフルエンザ	-	-	0.01		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.13	
小児科	咽頭結膜熱	2	0.08	0.49		小児科	RSウイルス感染症	150	6.25	1.77	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	0.33	1.59		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	83	3.46	3.39		眼科	流行性角結膜炎	3	0.38	0.73	
	水痘	1	0.04	0.23		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	79	3.29	4.18		基幹	無菌性髄膜炎	2	0.29	-	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.05		基幹	マイコプラズマ肺炎	-	-	0.06	
	突発性発しん	6	0.25	0.22		基幹	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	19	0.79	0.80		基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5～2の増減
微増減	↖	↙	前週と比較しておおむね1:1.1～1.5の増減
横ばい	→	←	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	64	60歳代・1人、70歳代・2人
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	11	10歳代・O157、60歳代・O26、70歳代・O血清群不明
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	10歳代
5	アメーバ赤痢	1	3	50歳代
5	急性脳炎	1	5	10歳未満
5	梅毒	11	174	10歳代・1人、20歳代・4人、30歳代・2人、40歳代・3人、50歳代・1人

■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフル エンザ	咽頭結 膜熱	A群溶血性 レンサ 球菌咽頭 炎	感染性胃 腸炎	水痘	手足口 病	伝染性紅 斑	突発性発 しん	ヘルパン ギーナ	流行性耳 下腺炎	RSウイル ス感 染症	急性出血 性結膜炎	流行性角 結膜炎	細菌性髄 膜炎	無菌性髄 膜炎	マイコプラ ズマ肺炎	クラミジ ア肺炎	(ロタウイ ルス)感 染性胃腸 炎
報告数	広島市	第25週	-	8	3	141	2	35	1	9	11	-	15	-	-	-	-	-	-	-
		第26週	-	13	12	143	-	54	-	8	8	1	42	-	2	-	-	-	-	-
		第27週	1	9	22	144	-	81	1	7	18	1	60	-	3	-	-	-	-	-
		第28週	-	12	15	117	1	81	-	6	26	-	122	-	3	-	-	-	-	-
		第29週	-	2	8	83	1	79	1	6	19	1	150	-	3	-	2	-	-	-
定点 当 た り	広島市	第25週	-	0.33	0.13	5.88	0.08	1.46	0.04	0.38	0.46	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-
		第26週	-	0.54	0.50	5.96	-	2.25	-	0.33	0.33	0.04	1.75	-	0.25	-	-	-	-	-
		第27週	0.03	0.38	0.92	6.00	-	3.38	0.04	0.29	0.75	0.04	2.50	-	0.38	-	-	-	-	-
		第28週	-	0.50	0.63	4.88	0.04	3.38	-	0.25	1.08	-	5.08	-	0.38	-	-	-	-	-
		第29週	-	0.08	0.33	3.46	0.04	3.29	0.04	0.25	0.79	0.04	6.25	-	0.38	-	0.29	-	-	-
	全国	第27週	0.01	0.38	0.40	4.55	0.07	1.42	0.01	0.39	0.34	0.04	1.51	-	0.24	0.01	0.04	0.02	-	-
		第28週	0.03	0.34	0.42	4.22	0.08	1.87	0.01	0.37	0.51	0.04	2.26	0.01	0.20	0.01	0.02	0.01	-	-

■ 広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第29週(7月18日～7月24日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
870	1,017	1,171	1,050	1,151	748	397	259	194	-	6,857

【累計報告数(7月24日)現在】 ※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
15,218	15,562	17,746	16,523	15,913	9,602	5,088	3,719	3,293	67	102,731

「風邪かな?」と感じたら、かかりつけ医や
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566に連絡・相談しましょう。
全日24時間対応

* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ
「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

【参考】サル痘について ～世界保健機関(WHO)「緊急事態」を宣言～

サル痘は、サル痘ウイルスによる感染症で、国内では感染症法上の4類感染症に指定されています。従来はアフリカで流行していましたが、2022年5月以降、欧州、米国等で報告が増加し、7月23日時点で75の国と地域から16,000を超える症例が報告され、5人が死亡しました。そのため、7月23日にWHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を宣言し、公衆衛生対策の強化やワクチン・治療法の研究加速などについて呼びかけました。
国内でも7月25日に1例目が報告されています。サル痘を疑う症状があった場合は、かかりつけの医療機関またはお住まいの区の保健センターにご相談ください。

【感染経路】

・感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液との接触(性的接触を含む)、飛沫感染、寝具等を介した感染。

【潜伏期間】

・7～14日(最大5～21日)

【主な症状】

- ・発熱、リンパ節腫脹、発しん(皮膚病変が局所(性器、肛門、口など)に集中する場合がある)。
- ・多くの場合、2～4週間で自然軽快するが、小児や妊婦、免疫不全の方などは重症化に注意が必要。
- ・男性が多いが、女性や子どもの報告もある。

【参考】サル痘について(厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/monkeypox_00001.html

【参考】各区保健センター連絡先(広島市)

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease-iryo/239.html>

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL(082)277-6575FAX(082)277-5666E-Mail: lei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp